

松戸市立病院後期臨床研修プログラム（消化器科）

1.研修対象者

初期研修2年間を終了したもの。

2.研修期間

1～3年間

3.研修カリキュラム

研修目標・・・消化器内科で遭遇する common disease に対し、一般内科的及び、他科疾患との鑑別、振り分けの判断ができる能力を身につけ、専門医へ適切に相談できることを目標とする。一般的な消化器科的診断手技、治療手技を経験年数、能力に応じ研鑽してもらおう。

1年次・・・腹部超音波検査（年間300例以上）

上部内視鏡（年間1000例以上）

下部内視鏡（引き抜き観察を中心に500例以上）

腹部血管造影（助手として100例以上、30例以上の助手経験で
穿刺、カテーテル操作を上級医より指導をうける。）

ERCP（助手として造影、治療の補助を経験する）

2年次・・・1年次の上記目標をクリアしたと認められれば、

肝生検、PTGBA（胆嚢穿刺胆汁吸引）、内視鏡的胃ポリペクトミー、
大腸内視鏡挿入（段階をふんで）、腹部血管造影のカテーテル造影、
ERCP 時の側視鏡によるファーター乳頭の観察など治療手技に準ずる
検査に重点を置き研鑽してもらおう。

3年次・・・2年次の目標をクリアしたと認められれば

PTBD（経皮経肝ドレナージ）、HCC に対する局注療法、EMR、食道静
脈瘤の内視鏡的治療、出血性消化管出血の内視鏡治療、TA CE（カテ
ーテル的肝動脈塞栓術、ERCP 造影など治療を中心に研鑽してもらおう。

* 消化器疾患全般の診断と治療を特に急性、重症例を中心に経験してもらおう。

4.研修システムの特徴

火曜日 17：30～内科との合同カンファレンス

水曜日 17：30～消化器科カンファレンス

木曜日 17：30～放射線科との CT カンファレンス

金曜日 15：30～部長回診

月一回の外科・病理との術後症例検討会

週一回（半日）大学病院またはそれに準ずる施設での研修可（無給）

東葛地区、松戸市を中心とした3次救急受け入れ病院の責務として、消化管出血の内視鏡治療を中心に、24時間体制で当番制（内視鏡院外待機）を敷いている。従って、週一回程度、上級医の緊急内視鏡の補助に携わる。

5.指導スタッフの概要

平成17年より日本消化器内視鏡学会より内視鏡指導施設として認定された。

また、日本消化器病学会認定施設も申請中である。

スタッフ

消化器科部長：平井康夫（日本内科学会専門医、日本消化器病学会専門医）

医長 大久保裕司（日本内科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会指導医）

医長 土屋良成（日本内科学会指導医）

医長 徳弘直紀（日本内科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医）

医長 齋藤秀一（日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、感染コントロール専門医）

6.研修終了後の進路

千葉大学細胞治療学講座において消化器病学（とくに消化管疾患）の専門的な基礎と臨床の研究に研鑽してもらおう。